

さゝ波

滋賀県断酒同友会

発行人 西 浦 正
事務局 米原市天満147
TEL 0749-55-0661
印刷所 (有)中嶋印刷所



新年度を迎えて

会長 西 浦 正

4月、春風に木々が芽吹き、桜花の開花に春を感じる季節となりました。当会も発足して40年目の新年度を迎えることとなります。本年の活動方針テーマは昨年に引き続き9年連続になりますが「自覚・自立・前進」サブテーマ「断酒そして感謝」に決定されました。40周年記念大会には大会テーマとして掲げます。会員、家族一人ひとりがこの活動方針テーマを心に刻み活動して頂きたいと思えます。

私は断酒会がある事を早くに知りました。会社での寮生活をしてきた昭和50年、28歳の頃、その頃には酒を飲みすぎる日も度々あり、手の振るえで字が書けないことが何回か起こり会社人生を送れないのではと不安で悩んでいました。そんな頃、休暇で郷里に帰っていて、風邪を引き、医者から薬が効かないからと酒を止める様に指導を受けました。酒を止めた夜、天井一杯の武者絵を見る幻覚を経験し、その後、人のいない仏壇の後ろや、ふすまの向こうから「死ね！死ね！」の声が聞こえる幻聴に襲われ、恐怖を感じました。昼間になっても幻聴が消えず、途方に暮れていましたが、郷里から会社の寮に帰る途中の列車の中で酒を飲み、幻聴がやんだのにホッとした事を覚えています。そんな事があって暫くしたある日、帰社後何時もの様に酒を飲み、ひと眠りし目覚めるとテレビが映っていました。消し忘れたテレビは兵庫県のある断酒会の例会風景を写していました。お酒に問題を抱えた人が、酒を止める為、集まり話し合いをしていると解説があった。酒を止める為にこの様な会があるのかと思ったが、「まだ私には、違う世界だ」と酒を飲む生活を選択し続けた。それから11年、酒の問題はあるものの仕事も続けていたが来るべきものが来た。仕事中の飲酒で注意を受けアル中状態だった私は、上司より体を治せと休暇を貰いました。会社を辞めるつもりでいましたが温情を頂いた。家内が探してきた断酒会に相談しアルコール専門病院を紹介され入院させてもらった。病院を退院した日に栗東支部に入会しました。酒を止められるか不安でしたが、勧められるように例会に参加を始め、飲まないかの不安から、仕事を定時に終わらせて貰い毎日例会を始めた。支部例会が毎日どこかで開催され、毎日例会されている先輩方がおられた。明日も会おうと声をかけて頂き励みと楽しみがでて例会出席が続けられた事が自分にとってありがたかった。語られる体験談が自分の中に入り、追体験と失われた記憶が甦ってくる。例会に参加すると酒を止める決意が強まるのと気持ちがりフレッシュ、明日も頑張ろうという気持ちになる。例会に通う事で酒も飲まずにいられました。断酒できていることに感謝しています。

平成29年度も一人一人が例会を大事に、仲間を大切に活動して行きましょう。

今年は5月3日(水・祝)に滋賀県断酒同友会40周年記念大会があります。会員、家族の皆さんが結集して準備し成功させましょう。